

N 共に生きる豊かな 福祉社会のために Normalization



子ども、障害のある人、高齢者を柱に、朝日新聞厚生文化事業団は社会福祉事業に取り組んでいます。東日本大震災では救援募金を呼びかけ、両親を失った子どもに「こども応援金」を贈るなど、独自の救援事業に力を入れてきました。多くの皆様のご支援に厚く感謝を申し上げますとともに、さらなるお力添えをお願いいたします。

東日本大震災救援事業

2011年3月11日に発生した東日本大震災では当日から救援募金を呼びかけ、1年余りで約9万件、35億円を超えるご寄付が寄せられました。「用途を朝日新聞厚生文化事業団に一任する」というご意思が確認できた分については、当事業団独自の救援事業に活用させていただいています。日ごろの福祉活動を生かし、子ども・障害のある人・高齢者に焦点を当てた以下の事業です。

■独自の救援事業

●こども応援金

津波などで両親を亡くした子ども(孤児)に「応援金」(一人150万~300万円)を直接、贈り届けています。12年11月8日には200人に達し(自治体発表の対象者は250人)、計4億8550万円を渡すことができました。ご寄付いただいた方々のお気持ちを一人でも多くに渡そうと、さらに周知の努力を続けています。

●震災に遭った子どもへのグリーフケア

大切な人を失った事実を受け止め、悲嘆(グリーフ)を抱えながらも立ち直っていくための支援を「グリーフケア」と呼びます。震災で大切な人を亡くした子どもに寄り添い、支援する事業を12年9月にスタート。仙台駅前にスペースを確保し、遊びや学びを中心にした生活相談や学習支援に加え、保護者(親や親族、里親など)の相談など、周囲へのサポートも柱にします。息長く社会がバックアップするために、「こども応援金」と共に震災直後から準備を進め、実現したものです。この一環で、日本キャンプ協会、日本YMCAと一緒にキャンプ事業も実施しており、12年3月の台湾キャンプ(4泊5日)には孤児10人が参加しました。

●被災地ビジット

被災地の仮設住宅や幼稚園・保育園、小中学校、障害のある人や高齢者の施設を、音楽家らと一緒に訪問し、楽しいひとときや安らぎの時間を過ごしていただく訪問事業を実施しています。バイオリニストの川畠成道さん=写真①、歌手のおおたか静流さんとピアニストでマジシャンの大友剛さん=同②、バイオリニストの千住真理子さん=同③=と高砂部屋の力士らが11年秋からこれまでに計53カ所を訪れました。



●陸前高田に「朝日のあたる家」

津波により壊滅状態になった岩手県陸前高田市で、地元に着した在宅ケア事業を構築するために、高齢者や障害のある人、子どもが集える拠点となる「朝日のあたる家」を着工しました。医師、看護師、介護サービス従事者らとNPO「福祉フォーラム・東北」を立ち上げ、地域コミュニティづくりに取り組んでいます。

●被災地の障害のある人を支援

岩手県内で被災した障害のある人を中心に、地域で自立した生活が送れるように、障害のある当事者による支援活動を続けています=写真。震災直後には、障害のある人たちの全国ネットワーク(DPI日本会議、全国自立生活センター協議会、ゆめ風基金ほか)による被災地での活動と、原発事故で福島県いわき市から東京へ避難した人の受け入れに1500万円を助成しました。



●避難所に間仕切り設置

社会福祉法人AJU自立の家が震災直後から実施した避難所のプライバシー確保のための間仕切り設置の活動に総額1800万円を助成し、協力しました。

■寄付金の贈呈

東日本大震災の救援募金のご寄付のうち、いわゆる「義援金」として寄託された分や、用途についてのご意思が確認できない分については、お預かりしたお金として、24億6650万円を以下のように配りました。



- ①宮城、岩手、福島各県2億円計6億円
 - ②震災孤児・遺児のための指定で宮城県2億5千万円、岩手県2億円、福島県5千万円の計5億円
 - ③日本赤十字社4億6400万円
 - ④宮城、岩手、福島、茨城の各県社会福祉協議会1億円計4億円
 - ⑤福祉施設・団体などへの助成金として宮城、岩手、福島の各県共同募金会に1億円計3億円
 - ⑥災害ボランティアセンター運営費として市区町村の社会福祉協議会70団体に計1億9千万円
 - ⑦福祉施設に放射線量測定器250台を配るため福島県社会福祉協議会に1250万円
- (写真は①宮城県山元町の災害ボランティアセンターから派遣され、被災家屋を片づけるボランティア②朝日新聞社と共催した東日本大震災救援チャリティー報道写真展)



子どもの福祉

●児童養護施設・里親家庭の高校生進学応援金

児童養護施設や里親家庭で暮らす高校生に、大学、短大、専門学校への入学時の入学金、施設設備費と支度金(上限合計100万円)を贈っています。2008年の事業団創立80周年を記念して始まった事業で、11年度までの4年間で87人に贈呈。12年度も25人が内定しました。

●社会的養護の当事者グループ 全国ネットワーク「こどもっと」

児童養護施設や里親家庭で暮らしたことのある人たちのグループと事業団が10年に結成した「こどもっと」は、12年度9月に静岡県立富士山麓山の村でピア・キャンプ(2泊3日)を実施。児童養護施設などで暮らす高校生とグループのスタッフら約40人が参加しました=写真。10月に名古屋市で開かれた「全国の社会的養護等当事者を支える」シンポジウム(こどもサポートネットあいち主催)では、「こどもっと」に参加する各グループの代表らが当事者活動の現状、課題などについて意見交換をしました。



●朝日夏季保育大学

長野県諏訪市で毎夏、開催しています。11年7月の第58回では、虐待や東日本大震災で被災した子どものトラウマと手当てをはじめ、多彩な講義を保育士ら550人が聴講。12年7月27、28日の第59回には約450人が参加し、発達障害の子どもの理解と支援、実験と工作で楽しむ科学などを学びました=写真。



●親子で楽しむクリスマスコンサート

恒例の「親子で楽しむクリスマスコンサート」を11年12月に東京・有楽町朝日ホールで開催。中川ひろたかさん(シンガー・ソング絵本ライター)率いるバンド「ON'S」が出演し、家族連れら約600人がなごやかなコンサートを楽しみました。12年度も12月23日に有楽町朝日ホールで開催します。



高齢者の福祉

●高齢者施設訪問プログラム「ゆうゆうビジット」

高齢者向け施設の入居者や利用者と、一流の音楽家らとの交流を図る企画で、10年2月からこれまでに全国40カ所で開催しました。千住真理子さんと川島成道さんのバイオリンコンサート、おおたか静流さんと大友剛さんによるコンサート、日色ともゑさん(朗読)とマリオネットのコンサート=写真①、高砂部屋の力士との交流=同②=に、11年度から福田進一さんのギターコンサート=同③=が加わりました。



●連続講演会「人生の終い方」

「人生の終(しま)い方～親の介護と自分の老後」をテーマに東京と大阪で各3回、講演会を開催。日程(敬称略)は、【東京】①「終末デザイン～在宅で最期を迎えるために」(医師・新田國夫、訪問看護師・秋山正子)=9月23日②「後悔の少ない最期のために」(医師・大津秀一)=10月20日③「人生の終いじたく」(女優・中村メイコ)=12月8日。いずれも浜離宮朝日ホール【大阪】①「終末デザイン～在宅で最期をむかえるために」(長尾クリニック院長・長尾和宏、介護共育研究会代表・石川立美子)=10月27日、大阪産業創造館②「人生の終いじたく」(女優・中村メイコ)=11月25日、エル・おおさか③「後悔しないための人生の設計図」(老人ホーム同和園付属診療所長・中村仁一)=13年1月27日、大阪YMCA会館



●高齢者暴力防止プロジェクト助成

みんなが心豊かに老後を暮らせる社会をめざし、高齢者への暴力・虐待を防ぐ取り組みを支援する事業を創設。2012年度までの2回で22団体に総額約2000万円を助成しました。13年度贈呈分も12年11月から13年1月にかけて公募しています。

●高齢者フォーラムと認知症の講演会

11年5月に東京と大阪で作家の落合恵子さん、在宅ケアを支える診療所・市民全国ネットワーク副会長の新田國夫さんらが、認知症の人の支援のあり方を話し合いました。12年度は「家族が認知症になったら」をテーマに、松本診療所(ものわすれクリニック)院長・松本一生さんが8月に大阪で、11月に名古屋・朝日ホールで講演、12月2日に福岡・明治安田生命ホール、13年3月23日に東京・浜離宮朝日ホールでも開催。

●朝日福祉ガイドブック「認知症とともに」

認知症の人と家族に寄り添うガイドブックを作りました=写真。①認知症の診断から治療・介護サービスまで②「認知症」とは③認知症ケア④施設への入所や看取りまで一の4章で、監修は滋賀県守山市で「もの忘れカフェ」を開業している藤本クリニックの藤本直規さんと奥村典子さん。定価1000円(10ページに案内)。



障害のある人の福祉

●自閉症カンファレンスNIPPON

国内最大の自閉症支援の会議です。2012年8月の11回目には約1000人が参加、TEACCHプログラムの第一人者、米国ノースカロライナ大学のゲーリー・メジボフ教授=写真左=やオーストラリア・モナッシュ大学のローレンス・バータック教授、佐々木正美・川崎医療福祉大学特任教授=



同右=らが、自閉症支援の基本と最新の情報を語りました。またメジボフ教授の講演会「自閉症を正しく理解すること」を8月から9月にかけて長崎、盛岡、福島、仙台の各市で開催し、計1250人が参加しました。

●自閉症の世界、DVDやマンガで

朝日福祉ガイドDVD「自閉症の人が見ている世界」(全3巻、写真)は、自閉症の正しい理解のための待望のDVDです。制作後1年半余りで4000セット近い購入希望をいた



だいています。自閉症の人の考え方や感じ方の「違い」を当事者13人が自ら語り、「とても分かりやすい」と好評です。各巻4300円。

また自閉症のわが子に寄り添う日々を4コママンガで綴った子育て記「100%あたらくん」=写真=も頒布しています。個性的な「あたらくん」の大活躍を笑いでくるんだ作品で、自閉症の子どもと、その家族の日常が理解できます。1冊600円(ともに10ページに案内)。



●高次脳機能障害の講演会

交通事故や病気などの後遺症で生活上の困難を抱える高次脳機能障害の人を支援する講演会を12年度は「高次脳機能障害の当事者・家族を支援する」をテーマに、国立成育医療研究センター・リハビリテーション科医長の橋本主司さんを講師に7月に仙台市福祉プラザ、10月に沖縄県浦添市の国立劇場おきなわで開催し、計350人が参加しました。13年2月9日に静岡市の静岡県男女共同参画センター、2月24日に広島市の広島YMCA国際文化ホールでも講演会を開きます。

●JC-NET（ジョブコーチ・ネットワーク）会議

障害のある人たちの就労の橋渡し役のジョブコーチをテーマに毎年3月に2日間、東京・大妻女子大多摩キャンパスで開いており、11年度は約400人が参加。12年度は13年3月9、10日に開催します。

●全国高校生の手話によるスピーチコンテスト

手話の普及と福祉教育の推進のため、毎年8月に実施しており、「手話の甲子園」として定着しています。12年度は8月25日に第29回のコンテストを東京・有楽町朝日ホールで開催しました（写真は1位の香川県・坂出第一高校2年の池田奈月子さん）。



●聖明・朝日盲大学生奨学金

視力障害のある学生を対象とした国内初の奨学金制度として1969年に創設され、月額3万円を貸与しています。総貸与者は12年度の44期生で196人になりました。歴代貸与者の中には弁護士や大学教授、市議会議員、ピアニストなど、活躍している人も少なくありません。

●障害者歩くスキーの集い

歩くスキーを障害のある人もない人も一緒に楽しむ催しで、札幌の滝野すずらん丘陵公園で毎冬、開いています。第32回の集い（12年1月15日）には約230人が新雪のコースで、思い思いのペースでスキーを操りました＝写真。第33回の集いは13年1月20日に開催します。



●車いすバスケットボール

朝日九州車いすバスケットボール選手権の第32回大会を11年12月に佐賀市で開きました＝写真。第33回大会は12年11月23、24日に大分県別府市の別府アリーナで開催。



また、九州車いすツインバスケットボール選手権の第23回大会を12年1月に沖縄県沖縄市で、第24回大会を12年9月に福岡市のアクション福岡で開きました（ツインバスケットボールはフリーサークル内にもう一つ低いゴールを設置し、下肢のみではなく上肢にも障害がある人も楽しめるように考案されたスポーツです）。

福祉啓発・公衆衛生ほか

●講演会「みんなでうつを考えよう」

うつ病になってもその人らしく生活するために、本人だけでなく、家族や周りの人ができることを考え、支援のあり方を探るのが狙い。2012年度は、国立精神・神経医療研究センター認知行動療法センター長の**大野裕さん**＝写真＝と精神保健福祉士の**石井雅也さん**を講師に、9月に大阪市立中央区民センターと東京・浜離宮朝日ホールで開催しました。



●朝日福祉ガイドブック「みんなのうつ」

うつ病の「分かりにくさ」を整理し、正しく理解するための入門書を作りました＝写真。①うつ病って何？②うつ病を理解しよう③うつ病の治療④うつ病とともにの4章。喪失体験をキーワードに発病のきっかけを説明し、治療法や対処法などを解説、うつ病とともにどう生活していくか、例もあげました。監修は**大野裕さん**。定価1000円（10ページに案内）。



●公開講座「自殺ちょっと待って!?!」

福岡いのちの電話との共催行事。12年度は10月に福岡市・都久志会館で開催。作家で僧侶の**家田荘子さん**が「この世に生まれ、生きて、生かされて…」と題して講演、精神科医の**川崎弘詔さん**、臨床心理学者の**林幹男さん**と鼎談しました。

●生活習慣病市民公開講座

北九州市で小倉記念病院の医師、看護師らを講師に続けており、12年度は糖尿病の話（12月1日）など4回をKMMビルで開催。

●アサヒベビー相談室

都会の中で育児に悩む母親たちのための数少ない民間の相談室です。大阪の近鉄百貨店阿倍野店、西武百貨店高槻店、西武百貨店大津店で開設しており、11年度の利用は計約1100人でした。

●西部朝日福祉助成金

1986年度から毎年続けてきましたが、11年度に九州・山口の9団体に255万6千円を贈ったのを最後に、終了しました。

●台風12号被災者救援金

紀伊半島を中心にした11年9月の台風12号による豪雨災害の被災者救援のため、募金を呼びかけ、寄せられた404件940万254円を和歌山、奈良、三重各県の日本赤十字社支部に贈りました。（写真は土砂崩れや浸水に見舞われた和歌山県那智勝浦町市野々地区）



チャリティー事業

●朝日チャリティー美術展・演奏会・茶会…

2011年度の朝日チャリティー美術展は名古屋、大阪＝写真①、東京で開催。画家、書家、各界著名人ら約2900人の方々から約3500点の作品をご寄贈いただきました。また、東京でメサイア演奏会＝同②、大阪で各派合同三曲演奏会＝同③、協賛能、各流合同茶会を、兵庫県尼崎市で洋舞合同祭＝同④、名古屋で歳末朝日チャリティー茶会＝同⑤＝を実施しました。このほか、チャリティー大茶会（茶道裏千家淡交会北九州支部主催）や杵勝会歳末チャリティー長唄演奏会、彩季会チャリティーバザーなど、多数の催しが行われ、ご寄付が事業団の社会福祉事業に充てられています。



2013年3月までの主なチャリティー事業の日程

- | | | |
|------------|--------|----------------------------|
| 11月 | 23日 | 第54回各派合同三曲演奏会（NHK大阪ホール） |
| 12月 | 6～8日 | 第59回朝日チャリティー美術展名古屋展（丸栄百貨店） |
| | 9日 | 第58回歳末朝日チャリティー茶会（名古屋美術倶楽部） |
| | 21日 | 第62回芸大メサイア演奏会（東京文化会館） |
| | 22～24日 | 第86回朝日チャリティー美術展大阪展（なんば高島屋） |
| | 23日 | 「歳末助け合い」協賛能（大阪・大槻能楽堂） |
| | 25～26日 | 第60回洋舞合同祭（兵庫県尼崎市・アルカイクホール） |
| 3月 | 8～11日 | 第88回朝日チャリティー美術展東京展（松屋銀座） |
| | 9～10日 | 第59回各流合同茶会（大阪美術倶楽部） |

朝日福祉ガイドブック・DVDのご案内

◆朝日福祉ガイドブック 【梱包送料】1冊180円、2～3冊250円、4～5冊300円(6冊以上はお問い合わせください)

『みんなのうつ』 (1,000円)	うつ病の「分かりにくさ」を整理した入門書。大野裕さん監修。自分や家族、周りの人が「うつ病かな」と思った時に開いてください
『認知症とともに』 (1,000円)	認知症の人や、その家族のために、診断から治療・ケア・介護サービス、施設への入所や看取りまでをイラスト入りで分かりやすく解説
『精神障害者のホームヘルプサービス』 (800円)	精神障害のある人が自分の好きな街で暮らすため、当事者の立場にたった支援ができるように、関係者の体験談や豊富な事例で解説
『自閉症の人たちを支援するということ』 (800円)	TEACCHプログラムの最高責任者、米ノースカロライナ大のメジボフ教授が自閉症とプログラムの内容を分かりやすく解説
『自閉症のひとたちへの援助システム』(500円)	TEACCHプログラムの実践例を紹介し、日本でいかに生かすかを提案
『100%あたくん』(600円)	自閉症のあたくんが大活躍の4コママンガ。自閉症の理解に役立ちます
ほかに『きみといっしょに』(500円)、『くるまいず-第3改訂版』(300円)、 『新・川崎病がわかる本一改訂増補版』(500円)、『小児ぜんそくは治る』(500円)など	

◆朝日福祉ガイドDVD 【梱包送料】7巻まで500円(8巻以上はお問い合わせください)

<p>『自閉症の人が見ている世界 ～自閉症の人を正しく理解する』 全3巻セット価格10,500円 各巻4,300円</p> <p>自閉症の人の考え方や感じ方の「違い」について、自閉症の人自身が語る言葉と映像は、自閉症を正しく理解する原点。第1巻「自閉症の人の学習スタイル」(63分)、第2巻「自閉症の人が好むこと」(39分+全3巻のタイジェスト21分)、第3巻「13人のエピソード」(85分)。</p>	<p>『親と教師のための自閉症の 子どもの評価 生活スキル編』 全4巻セット価格18,000円 各巻4,800円</p> <p>自閉症の人を正しく支援する上で、すべての基礎となる評価を詳しく、具体的に、わかりやすく映像化しました。第1巻「評価の仕方」(65分)・第2巻「評価のポイント」(48分)・第3巻「評価と課題設定」(86分)・第4巻「自立のための評価」(71分)。</p>
<p>『自閉症の子どもの自立課題』 全3巻セット価格13,500円 各巻4,800円</p> <p>「自分是可以るんだ」という感覚を養い、いろいろなことに取り組もうという意欲を育て、将来の自立した活動につながる「自立課題」を詳しくやさしく紹介。第1巻「自立課題の選び方」(64分)・第2巻「自立課題の作り方」(59分)・第3巻「自立課題のできあがり」(49分)。</p>	<p>自閉症児の治療教育シリーズ (米国ノースカロライナ州のTEACCHプログラム) 各巻 3,000円</p> <p>『自閉症児の明日のために TEACCHのねらいと考え方』(49分)、『親のためのTEACCHプログラム』(67分)、『教師のためのTEACCHプログラム』(69分)、『青年期・成人期のTEACCHプログラム』(55分)。</p>

お申し込み・お問い合わせ

ご希望の方は電話かFAX、電子メールで下記までお申し込みください(タイトル名、数量、送り先、電話番号を明記)。

朝日新聞厚生文化事業団 朝日福祉ガイドブック・DVD係

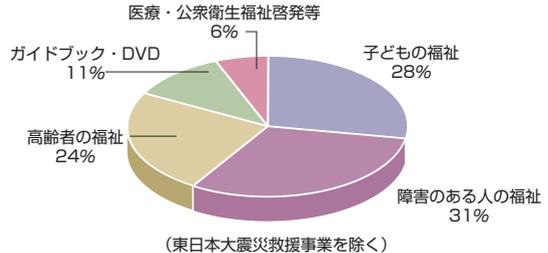
〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2 tel:03-5540-7446 fax:03-5565-1643

ホームページ(<http://www.asahi-welfare.or.jp/>)からもお申し込みができます。

ご寄付について

朝日新聞厚生文化事業団の社会福祉事業は皆様からのご寄付で実施されています。事業を指定した寄付も歓迎します。個人、法人ともに税法上の優遇措置があり、寄付者名・団体名は朝日新聞の地域面に掲載します(千円以上。匿名扱い可)。相続税が非課税となる遺贈・遺言のご相談も含め、同事業団へお問い合わせください。

皆様からのご寄付は以下のような事業に使われます (2012年度事業活動予算)



主な寄付方法

郵便振替 00130・1・9166 加入者名＝朝日新聞厚生文化事業団(通信欄に「寄付」と明記。領収書不要の場合も付記を)。事業団が振込料金を負担する振替用紙をご請求ください。

銀行振り込み 「三井住友銀行新橋支店 普通 303668」(銀行振り込みの場合は事業団へ電話連絡をお願いします)

現金受付 朝日新聞本社内の事業団窓口(平日午前10時～午後6時)、朝日新聞総局など
インターネット 事業団ホームページから電子マネー「ちょコム」募金

寄付金控除

個人の場合

事業団へのご寄付は次のような寄付金控除を受けることができます。所得控除と税額控除の二つの寄付金控除方式のいずれか有利な方をお選びいただけます。この優遇を受ける場合、確定申告をしていただく必要があります。

- **所得控除**
- **税額控除**

寄付金の合計額(年間所得の40%が上限)から2千円を差し引いた金額が、寄付者の年間所得から控除されます。

寄付金の合計額(年間所得の40%が上限)から2千円を差し引いた金額の40%(所得税額の25%が上限)が、寄付者の年間所得税額から控除されます。

法人の場合

当事業団に対するご寄付は、その寄付金の合計金額と寄付金の損金算入限度額のいずれか少ない金額が損金に算入されます。詳細はお近くの税務署、税理士にご確認ください。

相続税について の優遇措置

相続により取得した財産の一部または全部をご寄付された場合、ご寄付された財産について相続税は課税されません。また、遺贈については信託銀行と提携しています。

遺贈・遺言セミナー

遺言の書き方、遺贈の仕組みや寄付の方法などをわかりやすく解説します。12年度は10月29日に大阪市中央公会堂、11月20日に朝日新聞東京本社で弁護士の中山二基子さんを講師に、11月7日には北九州市立商工貿易会館で弁護士の石井将さんを講師に開催。

ご寄付や事業についてのお問い合わせは

■本部

〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2
TEL03(5540)7446 FAX03(5565)1643

■大阪事務所

〒530-8211 大阪市北区中之島3-2-4
TEL06(6201)8008 FAX06(6231)3004

■西部事務所

〒803-8586 北九州市小倉北区室町1-1-1
TEL093(563)1284 FAX093(563)1287

■名古屋事務所

〒460-8488 名古屋市中区栄1-3-3
TEL052(221)0307 FAX052(221)5453

<http://www.asahi-welfare.or.jp/>

E-mail mail@asahi-welfare.or.jp

※ご寄付で朝日新聞厚生文化事業団が手数料を負担する「郵便振替用紙」をご希望の方はご請求ください。

【口座番号「00130-1-9166」】

※銀行振込の場合は事前にご連絡下さい。

【三井住友銀行新橋支店 普通「303668」】

※ご寄付は各地の朝日新聞本社・支社・総局でもお受けします。

遺贈の仕組みや遺言書がない場合のデメリットなどをまとめた小冊子「遺贈」(A5判、20ページ)を、ご希望の方に無料でお送りします。各事務所に電話、ファクスでお気軽にご請求ください。

「朝日の社会福祉 2011-2012年度の活動」

第2版 2012年11月発行

社会福祉法人 朝日新聞厚生文化事業団